袋井あやぐも学園
袋井市立袋井中学校だより

あやぐも

幼小中一貫カリキュラムにより自主（Ｉの力）と（Weの力）を育成する学園

―自主・協同―

～夢を追い続ける生徒の育成～

令和３年 11 月 30 日発行

今年度の学力・学習状況調査（全国版・袋井版）の結果を受け、本校で結果を分析し、本校の生徒に見られる表れを中心に絞って以下に記述しました。

全国平均正答率を「☆☆☆」とした場合の本校生徒の正答率

高い☆☆☆☆☆　　やや高い☆☆☆☆　　やや低い☆☆　　低い☆

全国学力･学習状況調査結果（３年生）

国語	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
	☆☆☆	☆☆☆	☆	☆☆☆
数学	数と式	図形	関数	資料の活用
	☆☆	☆☆☆	☆☆	☆

袋井版学力･学習状況調査結果（２年生）

国語	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
	☆☆☆	☆	☆☆	☆
数学	数と式	図形	関数	資料の活用
	☆☆☆	☆☆	☆	☆☆☆

学年	教科	課　題	指導の改善点
３年	国語	●話合いの話題や方向性を捉えて、話す内容を考える問題の正答率が低い。	・複雑な問題文を読み取ることや、複数の文章から要旨を読み取ることができるように指導する。
	数学	●説明問題の無回答率が高い。 ●数と式の基本的な計算分野が低い。 ●資料の整理の領域で正答率が低い。	・基本的な計算技能を身につけないと説明につながらないため、まずは計算技能を高める。 ・資料の整理の領域では、単元の終わりに用語の意味やポイントを押さえなおす時間を確保して定着を図る。
２年	国語	●言語・知識領域の正答率が低い。 ●心情理解を問う問題の正答率が低い。	・漢字テストを継続するとともに、「分かっているつもり」を減らすために復習の機会を設ける。 ・一方的な読みではなく、根拠のある読みをさせる。
	数学	○数と式の領域では無回答率が低く、正答率が高い。 ●関数の領域で正答率が低い。	・関数の領域では反比例や代入する問題の正答率が低いため、２年で学習する一次関数の分野で比例、反比例と比較、連動しながら確認をする時間を設定して定着を図る。

生活習慣や学習環境に関する生徒質問紙調査（２、３年生）の顕著な結果

※［　］の数値は、全国調査と比較した「はい」「どちらかと言えば『はい』」と回答した生徒の割合。

＜〇本校生徒のよいところ＞

・調べたことをパソコンを使ってまとめたり、発表したりすることができる。（２年）［＋13.６％］
・目標に向けて、ふだんからこつこつ学習している。（２年）［＋９.５％］
・１、２年生のときに受けた授業で、コンピュータなどのＩＣＴ機器を使用している。（３年）［＋45.４％］
・あなたの学校で、コンピュータなどのＩＣＴ機器を、ほかの生徒と意見を交換したり、調べたりするために、使用している。（３年）［＋51.６％］
・今住んでいる地域の行事に参加している。（３年）［＋38.９％］
・あなたの学級では、学校生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている。（３年）［＋11.２％］

＜●本校生徒の課題＞

・黒板に書かれていないことでも、大事なことはノートに書きとめている。（２年）［－３.６％］
・ゲーム機やケータイ、スマートフォンでゲームをするときは、家の人と時間についてルールを決めている。（２年）［－１.４％］
・携帯電話、スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っている。（３年）［－９.６％］
・家で自分で計画を立てて勉強をしている。（３年）［－２.７％］

学力調査の結果から、３年生では、国語科の「読むこと」と、数学科の「資料の整理」で、２年生では、国語科の「書く能力」と「言語についての知識・理解・技能」、数学科の「関数」に課題があることが浮き彫りになりました。今後、課題解決に向けての対策に取り組んでいきます。また、国語科・数学科だけではなく、他の教科からのアプローチも検討しています。具体例としては、社会科や理科での問題の読み取りや記述問題に対する取組は、国語科の「読むこと」や「書く能力」へのアプローチになります。すべての職員でこれらの課題を共有し、授業や教科だけでなく、学校生活の様々な場面・方向から改善を図っていきます。

生徒の意識調査から見られる心の成長は、魅力ある学校づくりで幼保こ小中が連携して、自己肯定感や自己有用感を育ててきた結果です。これまで同様、幼小中一貫教育の取組が「学びの土台」となるものとして大切にしていきます。

意識調査からは、特徴的な結果も見られました。国の GIGA スクール構想を受け、袋井市では、県下でも一早く、児童・生徒一人に一台ずつタブレットを導入しました。その結果、授業における ICT 機器の使用については、２、３年生とも全国平均を大きく上回りました。また、生徒が ICT 機器を使って意見交換を行ったり、調べ学習を行ったりすることについても、全国平均を大きく上回っており、タブレットを導入した成果が確実に表れます。

今後の課題としては、ICT 機器の取扱い方と家庭学習への取組があげられます。生活の中に溶け込んでいる ICT 機器は大変便利なツールですが、その取扱い方が社会のマナーやモラルの面で課題となっています。意識調査の結果からも、家庭内で携帯電話やスマートフォンの使い方において、使用時間などのルールが守られていなかったり、ルールそのものが決められていなかったりといった課題が見られ、同様の傾向が読み取れます。また、家庭学習への取組や家庭での時間の使い方についても、本校生徒の課題です。袋井市では、家庭学習の内容や方法について啓発を行っており、幼小中一貫教育でも重点項目となっています。本校でも、学びづくり部や授業づくり部が中心となり、より良い家庭学習のあり方や方法の紹介をしていきます。

今後、中学校だけではなく、袋井あやぐも学園内の幼稚園・こども園・保育園、小学校とも今期の結果を共有し、連携しながら課題の改善に向けて進めていきます。また、生徒の資質・能力を育むため御家庭とも連携・協力をしながら取り組んでいきたいと思いますので、御協力よろしくお願いいたします。